

【社会】 < 小学校 第6学年 >

1 結果のポイント

「日本の歴史」について、「古墳時代」から「明治時代」の各時代についての用語やその意味の理解、資料から読み取る力をみる問題では正答率が75%を上回っているものが多い。

各時代を代表する人物や歴史上のできごとを手がかりとして、時代の流れを考える問題や、複数の資料から大日本帝国憲法の内容を選択する問題では正答率が60%を下回っている。

「国ができあがってくるころ」の社会の様子について、絵図を手がかりに読み取る問題では正答率が85%を上回っている。

鎌倉時代の政治の中心地について、地図を活用してその位置の理解をみる問題では正答率が50%を下回っている。

豊臣秀吉が天下統一において果たした役割を、キーワードを用いて表現する問題では正答率が50%程度である。

江戸時代と比べて、明治時代に文明開化によって新しく生まれたものや変化したものを資料から読み取り、その変化を適切に表現する問題では正答率が80%程度である。

2 結果の分析

(1) 「知識・理解」の力をみる問題の例

< 問題 > ①の1 ⑥の4

① 1 下線 の国の政府をなんと呼びますか。次のア～エの中から一つ選び、その記号を の中に書きましょう。
ア 明治政府 イ 江戸幕府 ウ 室町幕府 エ 大和 朝廷

⑥ 4 下線 について中心的な役割を果たした人物を、次のア～エの中から一つ選び、その記号を の中に書きましょう。
ア 陸奥 宗光 イ 板垣 退助 ウ 大久保利通 エ 伊藤 博文

< 結果 > ①の1 正答率 87.8% (正答...エ) ⑥の4 正答率 60.0% (正答...ア)

< 分析 >

①の1「大和朝廷ということば」の理解をみる問題は90%に近い正答率であり、また、④の1「織田信長が鉄砲を大量に使うという新しい戦法を用いたこと」の理解をみる問題も、正答率が90%を上回り、昨年度の類似問題よりも正答率が上回っている。このことから、各時代についての用語やその意味の理解についてはよく理解できていると考えられる。

しかし、⑥の4「条約改正における陸奥宗光の果たした役割」の理解をみる問題は、正答率が60%である。この問題の選択肢は、すべて明治時代に活躍した人物であるが、誤答となりやすい小村寿太郎は含まれていない。このことから、明治政府の改革やそこでの人々の働きの理解が十分でないと考えられる。近現代史の学習を充実させていく必要がある。

(2) 「観察・資料活用・表現」の力をみる問題の例

< 問題 > ①の3 ③の1 ⑥の3

① 3 よう子さんは、古墳づくりの様子の資料からわかることを考えました。よう子さんが考えた次のア～エの中から、最も適切なもの一つを選び、その記号を の中に書きましょう。

- ア 古墳が日本全国にあったことがわかる。
- イ 古墳の内部や出土品の様子がわかる。
- ウ 多くの人々を働かせることのできた人物がいたことがわかる。
- エ てきとの戦いにそなえて、大きくつくっていることがわかる。



③ 1 の図で、幕府が開かれた鎌倉の位置はどこですか。図のア～エの中から正しいもの一つを選び、その記号を の中に書きましょう。

<p>6 3 下線の内容として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を <input type="text"/> の中に書きましょう。</p> <p>1889年 <u>大日本帝国憲法を發布する</u></p>	<p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> — 自国の城を修理する場合、とどけ出ること。 — 将軍の許可なしに、大名の家どうしで結婚してはいけない。 	<p>イ</p> <p>第1条 日本は、永久に続く同じ家系の天皇が治める。</p> <p>第3条 天皇は神のように尊いものである。</p>
	<p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> — 政治のことは、会議を開き、みんなの意見を聞いて決めよう。 — みんなが心を合わせ、国の政策を行おう。 	<p>エ</p> <p>第1条 人の和を第一にしなければなりません。</p> <p>第2条 仏教をあつく信仰しないさい。</p>

<結果> 1の3 正答率 87.1% (正答...ウ) 3の1 正答率 48.4% (正答...ア)
6の3 正答率 44.3% (正答...イ)

<分析>

1の3「絵資料から多くの人を働かせることができた人物がいたことを読み取る力」をみる問題、3の4「写真資料から現在の日本風の家づくりに受け継がれているものを見つける力」をみる問題は、共に正答率が85%以上である。これは、絵資料や写真資料から事実を読み取る学び方指導が繰り返し行われている成果であると考えられる。

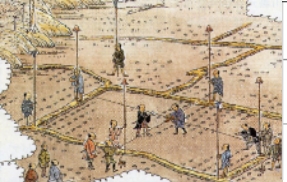
しかし、3の1「鎌倉時代の政治の中心地の位置を地図上に示す」問題の正答率は48.4%で、昨年と同様低い正答率である。歴史学習においても、各時代の政治の中心地や主なできごとの起きた場所を、地図帳で繰り返し確認することが必要である。

また、6の3「資料が示している内容を正しく読み取り、適切な資料を選択する力」をみる問題では、昨年度の類似問題と比較すると正答率はやや改善されているものの、45%を下回っている。誤答を分析すると、大半がウであることから、学習指導要領に示されている「明治天皇の名による五箇条の御誓文の発布」や「明治政府が大日本帝国憲法を制定し、立憲政治を確立したこと」の理解が十分でないことや、明治維新や近代化に関する資料の内容の読み取りに課題があると考えられる。このことは6の小問の正答率の平均が61.5%で、6つの大問の中で際立って低いことから言える。よって、明治政府の改革やそこでの人々の働きの理解を十分にできるようにするとともに、それらを活用して調べたり思考したりする学習が十分に行えるように指導計画を工夫・改善する必要がある。

(3)「思考・判断」の力をみる問題の例

<問題> 4の2

ひろ子さんは下の2つの資料を使って、豊臣秀吉とよみひでよしの役割を説明する文をつくろうとしています。の中の文と「区別」ということばを使って、ひろ子さんの説明を完成させましょう。

<p>①検地の様子</p> <p>田畑の広さや土地のよしあし、耕作している人物などを調べた。</p> 	<p>②刀狩の命令</p> <p>諸国の百姓が刀、やり、鉄砲などの武器を持つことを禁止する。 取り上げた刀などは、新しくつくる大仏のくぎなどにする。</p>	<p>秀吉は検地や刀狩を行うことによって、 ----- ----- 武士が支配する社会のしくみをつくるという役割を果たした。</p>
--	---	---

<結果> 正答率 49.4% (正答...略)

<分析>

この設問は「豊臣秀吉が全国統一にどのような役割を果たしたのかを考え、キーワードを用いて自分の考えをまとめる力」をみる問題である。昨年度の類似問題と比較すると、正答率はやや改善されているものの、なお50%を下回っている。また、無解答が12.2%と高い。これは、豊臣秀吉の政策について調べる学習はできているが、調べたことをもとに豊臣秀吉の意図を考える中で、検地や刀狩等の複数の資料から読み取ったことを比較・関連付け・総合しながら再構成することが十分に行われていないと思われる。今後、学習指導要領の「豊臣秀吉が検地や刀狩などの政策を行ったことを取り上げて調べ、資料から豊臣秀吉の意図を考える学習を通して、戦国の世が統一されたことが分かるようにする。」という内容を踏まえ、調べ、考える学習を充実させる必要がある。また、学習を振り返り様々な事実を整理しながら、課題に対する自分の考えをまとめ、記述する指導を一層充実させる必要がある。

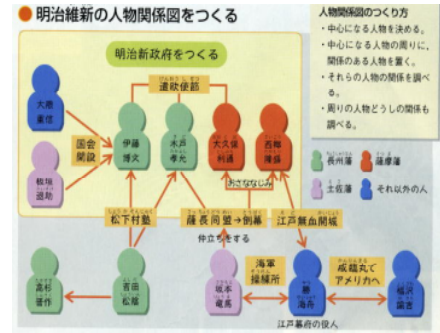
思考・判断の力をみる問題の正答率の平均は64.8%であり、昨年度(67.1%)と同程度である。今後も事実を根拠にして考え、判断し、表現する力を育成する指導の充実が一層求められる。

3 分析を踏まえた指導の改善

(1) 指導計画の改善工夫

近現代史の学習時間の十分な確保を！

- ・近現代史の学習時間を十分確保するために、年間指導計画を見直し、指導内容や指導時間に偏りがないようにするとともに、それに従って計画的に授業を進めることが大切である。
- ・明治以降の時代は、歴史的事象や人物が複雑に絡み合っていることから、児童が興味・関心をもって学習ができるよう、取り上げる歴史事象や人物に関する資料の数や内容や形態を工夫したり、歴史的事象を扱う時数に軽重をかけたりの工夫が必要である。また、知識の定着を図るとともに、身に付けた調べ方やまとめ方を以後の学習に転化できるような時間の位置付けも工夫したい。



(教科書 6年上 89頁)

年表をもとに学習を見通す場や学習したことを年表に整理する場の位置付けを！

- ・単元の導入において、人物年表等をもとに分かることと分からないことを明らかにしながら学習計画づくりを行ったり、単元の終末に学習してきたことを時系列で整理し年表にまとめたりするなど、年表を活用した学習が展開できるように単元指導計画を工夫する。(教科書6年上20、21頁参照)

歴史学習においても地図帳の活用を！

- ・地図帳の活用の意義に気付くことができるよう、学習している時代の地図と地図帳とを比較することで、時代の変容をとらえたり学習してきた社会的事象の位置を確かめることにより、過去の出来事を位置関係でとらえたりできるようにしたい。
- ・人や物等の動きや広がりや白地図にまとめる作業学習をしたり、調べたことを分布図にまとめて自作資料として発表したりするなど、児童が主体的に地図を活用し理解を深められるようにすることが大切である。

(2) 指導方法の工夫改善

複数の資料から読み取ったことを比較・関連付け・総合しながら再構成する学習を！

- ・資料から事実を読み取り自分の考えをもつことができても、資料が複数になると考えをまとめることが難しくなる。そこで、教師は児童一人一人の考えを聞き分け、整理しながら構造的な板書にまとめ、相違点や今の論点はどこなのかをはっきりさせることが必要である。また、一人一人の考えが深まるように「一番中心となっているのはどれだろう。」「まとめるとどういうことだろう。」といった働きかけを行う必要がある。

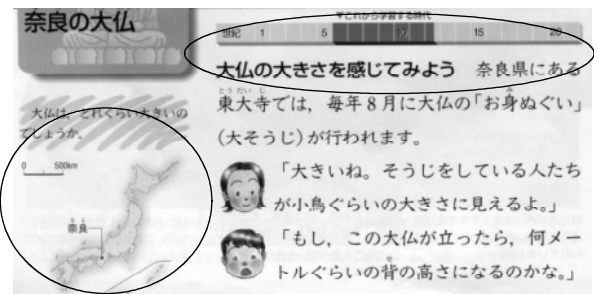
学習のまとめにおいて記述する時間の確保を！

- ・授業終了前の10分間をめどに、学習を振り返り自分の考えをまとめる時間を設定する必要がある。また、「分かったこと、思ったこと、さらに調べてみたいことの順で書いてみましょう。」「自分の生活とのかかわりを考えて書きましょう。」「キーワードを使って書いてみましょう。」といったように、何をどのようにまとめるのかについて具体的に指導・援助をする必要がある。

(3) 学習環境の工夫、学習集団の育成等

年表、地図が十分活用できる学習環境の工夫を！

- ・自分が学習している時代が今から何年ほど前のできごとなのか、歴史全体から見たときどのあたりなのかなどを確かめることができるよう、教室に古代から現代までの略年表を掲示することが望ましい。また、学んだ地名を確認するとともに、調べた場所を示すことができるように、白地図を準備する必要がある。



(教科書 6年上 22頁)

児童の興味・関心を高める働きかけを！

- ・児童が、学校で身に付けた調べ方やまとめ方を家庭での学習に転化できるようにすることが大切である。そのために、学習した人物の意外なエピソードを紹介したり、歴史的事象と自分たちの生活とのかかわりを示したりして、児童の追探究意欲を喚起するような働きかけを行っていきたい。

指導改善事例は、「岐阜県総合教育センターHP 教科教育等 学力向上P」授業改善(H16~18)及び授業改善推進プラン(H19~)」を参照する。<http://www.gifu-net.ed.jp/gec/>